

NEWS LETTER

小村寿太郎侯東京奉賛会 広報誌

VOL.7

Contents

- ・小村寿太郎侯青山墓所案内板設置
- ・連載 小村寿太郎侯をめぐる人びと その2 菊池 武夫
- ・“小村寿太郎と小倉処平”で盛り上がった今年のゼミナール
- ・世界の歴史教科書シリーズ 5 「イギリス」
- ・「防人（さきもり）たちの下へ」バスツアー
- ・「三笠丸と猿島」バスツアー
- ・平成 29 年 総会・懇親会のお知らせ

2017
秋季号

平成 29 年 10 月刊行

青山霊園の小村侯墓地に案内板設置さる

10 月 1 日は記念の日となった。小村寿太郎侯東京奉賛会では、青山霊園の管理者である東京都から標記案内板の設置許可を得たうえで、日南市に対して予算を要請したところ叶わず、設置資金の応募を広くお願いすることとなって、大口の島田修様を含む 71 名の方々のご理解とご協力のお陰で 843,000 円ものご芳志を賜った。

案内板設置に先立つ準備作業として、9 月 18 日（敬老の日）、大きく育ち過ぎた椎の木の枝落とし及び鳥居に寄り掛かっている、根元が腐敗している樺の伐採という大仕事を丸 1 日掛けて成し遂げた。会員の本田武次様を中心に、その実弟の本田忠雄様、向高博士様等有志計 10 名が熱中症に気を付けながら大汗をかいた。



そして、いよいよ 10 月 1 日（日）午前 10 時から設置作業が始まった。最長老の小野司市様（90 歳）、在京宮崎県人会榎本郁夫会長様をはじめ、26 名全員の手により、予め小村侯生誕の地、飫肥から取り寄せておいた砂と砂利をセメントに混ぜ、飫肥杉製案内板（高さ 2m、幅 1m25cm（アクリル板：縦 60cm 横 87cm））の支柱 2 本の基礎にそのコンクリートを流し込んで設置が完了し、皆で墓前に参拝して完成を報告した。まさに、世界を股にかけて大活躍した小村寿太郎侯の墓地案内板設置という青山霊園第 1 号の歴史的瞬間であった。



御 礼

今年度計画致しました青山墓地での小村寿太郎侯の略歴（案内板）が完成し、掲示しました。ここに完成しました事をご報告できます事はこの上ない喜びでありますとともに、ご協力ご尽力をいただきました皆様へ衷心よりの敬意と御礼を申し上げます。

青山墓地を訪れる参拝者、研究者などは多くありますが、青山墓地の中でも最も立派な鳥居を見て、この人は、……と質問される事が多くありました事が原点でした。

そこで思いついたのが日南にある侯の墓所の略歴でした。しかしこの会はまだ発足五年の未熟な組織で財政基盤も確立しているとは言えない中での計画でしたが、会員の皆様の甚大なご尽力とご理解をいただき、又多くの皆様の御力添えによりここに完成する事が出来ました。あの広い青山墓地であれ程立派な鳥居と案内板は他にはありません。今後とも私どもは規約にありますように、より多くの皆様に侯の人格、実績等々を知ってもらうべく努めてまいります事をお誓い申し上げ、御礼と致します。

会長 川村 蒼市



小村寿太郎侯をめぐる人びと

その2 菊池 武夫

連載

会 員

ひらのけい いち
平野 恵 一

岩手県出身

小村寿太郎侯はその生涯で、特に社会人となってから一つの地獄と一つの病魔に襲われた。

一つは、厳父の借財を肩代わりしたことに因って生じた高利貸しからの取り立て地獄であり、もう一つは、結核菌という病魔に襲われたことである。この双方に深く関わったのが今回紹介する法学者菊池武夫である。

小村侯と菊池との最初の出会いは、大学南校（東京大学の前身）であった。

小村侯は飢肥藩から、菊池は岩手・南部藩からの貢進生として、明治新政府が東京に開設した前記大学へ進んだ。ともにトップクラスでの卒業に当たっては、第1回文部省海外留学生としてアメリカに渡り、小村侯はハーバード大学で、菊池はボストン大学で法学を学び、卒業し、帰国後はともに司法省に務めた。菊池は、

小村侯が外務省に転じた後も司法省に残り、大津事件の頃は、山田顕義司法大臣秘書官から民事局長となっていた。そして、大臣にたいして、ロシア皇太子を襲った犯人津田三蔵に当時の刑法の皇室罪を適用することの無理あることを直言し、大臣に閣議においてその旨主張するよう進言するが受け入れられなかった。菊池は官を辞し弁護士となり、帰国当時から関心を持っていた若者に英米法を原語で教える教育に一層力を入れた。イギリス法律学校（中央大学の前身）や東京法学院（法政大学の前身）を開設・拡充し、小村侯にも講師陣に加わってもらっていた。講師の多くはボランティアであったが、小村侯に対しては幾ばくかの講師料を職員に自宅まで持参させ、マチ夫人に直接手渡させていた。職員の報告から小村侯宅の様子が尋常でないこと、即ち、高利貸しの取り立てのすごさを知った菊池は、小村の才能が高利貸しにつぶされては国家の一大損失と考え、友人と相図り、小村侯の借金整理に当たる。友人7人が連帯保証人となり、且つ返済の一部を負担することとして、正規の金融機関から一括借り受け、高利貸しへ支払いを済ませることとした。これによって、小村侯は借金地獄からの脱出の見通しがたった。このように小村侯は、己の知力と胆力、マチ夫人をはじめとする家族愛に加え、菊池らの友情で借金地獄を克服した。小村侯はこの地獄で一回りも二回りも骨太に成長し、大人物となって這い上がり、日本外交をリードしていったことは、歴史の示すところである。

菊池は終生法曹界と教育界に身を置いたが、娘と孫娘は外交官に嫁いでいる。

菊池の娘・ハマは、岩手出身で満州事変の頃の在米大使・出淵勝次夫人である。

出淵は、岩手の貧乏士族の次男として生まれ、中学校（盛岡中学、現 盛岡一高）へは父方の祖父で牧場を営んでいた一条家から通っていた。牧場の手伝い等で勉強する時間がなく、中学で一度落第している。その後、東京高商・現一橋大学を卒業し、小村外務大臣の頃、外交官試験に合格して入省した。出淵は受験に当たり、己の背の低いことを気にして、同郷の杉村濬通商局長に胸の内を尋ねたところ「日本外交は背丈でおこなっているわけではない。現に今、日本外交を仕切っておられる小村外務大臣閣下は、君と同じように背はそれほど高くない。」と励まされ、勉強に一層気合いが入ったと述懐している。

出淵は、小村侯との格の違いが歴然としていて、ほとんど直接的交わりはなかったと推測されるが、岳父の親友が大臣小村侯ということで畏敬の念を以て小村侯を仰ぎみていたことと思われる。

小村侯の外務省葬が青山斎場で執り行われたとき、政務局第一課長となっていた出淵は、小村侯がフランスから受賞した勲章を奉持し、葬列に加わり、恭しく棺に従った（『外務省の百年上下』外務省百年史編纂委員会 原書房 1969。上P565）。

出淵の娘、即ち菊池の孫娘・隆子は、栃木出身で大学は父の後輩、日米安保条約改定交渉時の在米大使・朝海浩一郎に嫁いでいる。岸信介総理が渡米し、信頼関係を深めるため、アイゼンハワー大統領とゴルフをしたことは有名であるが、プレイの後、素っ裸になってシャワーを浴び、大統領が岸の一物の見事なことに「ワンダフル」を連発したとの秘話があるが、これらを演出したのが朝海大使といわれている。

このように娘と孫娘の嫁ぎ相手が外交官だということは、菊池が家族に親友大外交官小村侯を誇りとしていたことを雄弁に物語っている。

また、日本建設界の雄「鹿島」の草創期の社長、鹿島精一・旧姓葛西と出淵は従兄弟同士、精一は盛岡中学、東京一高、

東京大学を経て鹿島岩蔵の娘・糸子と養子縁組し、近代鹿島の基礎を固めた。精一と糸子の子・卯女が外交官・永富守之助と養子縁組が成り立つまでには、外交官の先輩としての出淵の働きが大いにあずかった。とくに精一が欧米視察の折、ドイツ大使館に赴任する若き守之助と出会ったことがそもそもの縁となり、糸子の「外交官」はという消極性を押しきって、縁組みが成立したことを知ると出淵の存在がより一層重く感じられる（『鹿島建設の歩み』小野一成 鹿島出版 1989。P162～179）。卯女は、夫・守之助が国務大臣就任に伴い社長を退くとその跡を継いで社長となり、経営の全責任を担った。元首相佐藤栄作は、その日記の中で、ビートルズのジョン・レノンの未亡人、オノ・ヨーコのオバで、「吉田茂」とのペンネームも持つ、昭和前記の語り部、外交官加瀬俊一夫人・寿美子と比較し、「頭が下がる」などと記して、卯女夫人を絶賛している（『佐藤栄作日記 全六巻』佐藤栄作 朝日新聞社 1999。第五巻 p141 と第六巻 p141 など）。

春秋の筆法に従えば、小村侯と「鹿島」は菊池を介して見えない糸でつながっているといえる。

小村侯の命までうばった悪魔、結核がいつ頃から小村侯にとりついたか、手元の資料によると侯 55 歳、第二次外相時代である。この頃、外務省内で、大臣の結核について恐れられていたと読める記録がある。「宴会などで、小村さんは盃洗で杯を洗いながら次々と献酬するのだが、これを頂戴する我々は盃洗の中に結核菌がうようよしているかと思うと、大臣の御杯もあまり有り難くなかった。」と当時政務局第二課長で犬養毅内閣の外務大臣芳澤謙吉はその著『外交六十年』（中公文庫 1990。P48～9）に記している。芳澤は犬養の女婿で、小村侯には反発していた外交官であるから、彼の小村論は割引して読む必要があるが、この記述は当時の外務省の空気の一面を映し出していると思われる。また芳澤は元国連難民高等弁務官・緒方貞子の祖父に当たる。

小村侯が外務大臣を退き葉山の別荘で養生していた頃、菊池も結核にとりつかれた。共通の友人杉浦重剛が葉山に小村侯を見舞いに行き、菊池も結核となった事を知らせると、小村侯は菊池の病状を詳しく聞き、「肺患・結核病は僕（小村侯）の方が先輩だ、菊池の発病は新参だ、当分は大丈夫だろう。」と語った（『小村外交史上下』外務省編纂 紅谷書店 1953。下 p484。実質的筆者は外交官出身の法学博士・信夫淳平）。予言通り、菊池は、小村侯の死去の翌年 1912・明治 45 年 7 月 6 日、小村侯の元へ旅立った。やはり共通の友人河上謹一は追懷談で「小村の負債を最後まで整理して小村が營養の道を得せしめたのは実に我が菊池で（中省略）小村が死んだ時、その広告を見れば、桂公爵、寺内伯爵、山本伯爵と立派な肩書きある名前を列記したが、その内に大事な大事な友人の菊池と杉浦の名を脱したのは実に遺憾千万である。小村自身も定めし草葉の陰にて眉を顰（ひそ）めていたに相違ない」（前記『小村外交史』上 p39）と小村侯と菊池のかかわりを遺憾なく述べている。

菊池は生前、小村外務大臣と高平小五郎在米大使が全権として調印したポーツマス講和条約反対運動が暴徒化した、所謂、日比谷焼き討ち事件の裁判で弁護人となった。法廷で最後に弁論にたって、裁判長にたいして「多数弁護人の長時間にわたる弁論を傾聴されたことに感謝する」とだけ述べて着席した（『岩手の 100 人』岩手日報社 1996。p102）。この発言は、弁護士として許されるぎりぎりの立場で、小村・高平全権に敬意を示し、限らない友情を表していると読める。

結核に冒される以前の小村侯、特に初入閣した頃の侯は、外務大臣から総理大臣となった大隈重信のように、外務大臣以上のことを目指していた。

これを裏付ける一つが、外務大臣に就任したとき、小村侯は次のような「内政外交に関する十年計画意見」を小村宅に寄宿したこともある小村俊三郎、当時外務省嘱託に、口述筆記させている事である。その項目は「1、財政の基礎を鞏固ならしむべきこと 2、行政機関の統一敏活を図ること 3、陸海軍隊の実力を増大ならしめること 4、海軍軍備の拡張 5、教育制度の刷新改良を図るべきこと 6、諸法典を改正し民情の實際に適合せしめること 7、交通機関を完備せしめること 8、海外貿易の発展を期すべきこと 9、海外事業を保護経営すべきこと。」（前記『小村外交史上下』上 p206）。まさに、総理大臣の所信表明である。

小村侯が結核に冒されなかったら、ストレプトマイシンがその時代にあったら、小村侯は間違いなく総理大臣になっていた。侯にはその能力と意欲が十分あった。この意味で小村侯の死は、志中半の無念な、悔しい死であった。

小村侯を敬い、その足跡を評価する後世の志ある者は、小村侯の壮志を引き継ぎ世に伝えて行かねばならない。換言すれば、小村侯の仇を討つこと、即ち、総理大臣を目指す人材の育成である。これが実現したとき、青山墓地に眠る小村侯の高笑が天下に轟き響くであろう。



菊池武夫（国立国会図書館ウェブサイトより）

の小学校の原型かと、感銘しました。

小村侯に英語への道をひらくなど、侯への影響が強かった小倉処平が晩年、欧州留学後、武力で韓国と国交をひらく「征韓論」に与したことで、西南戦争に参加したことが不可解です。小倉が共和主義者で親政・天皇主権に反対だったとすれば、侯とは国家に対する基本的考えが異なります。また、侯は、日韓併合に当たって、武力併合論を取らず条約によって我が国の意思を実現し、侯や高平小五郎らの外交努力により、この条約に反対する外国は皆無であったことを歴史は教えています。

松下 定信（種子島）

この度は長友様の講演を受講させて頂き、小村侯について更にその知識を新たにすることが出来た事はひとえに長友様のこれまでに小村侯に対する情熱を感じた事は当方にとり非常に大きな喜びとそして感謝に尽きる所です。小村侯は生まれながらにして、その才能を十二分に発揮し、日南市飢肥、決して恵まれたとは言えない環境をもとめせずに父寛平、そして祖母くまの愛情を受け、特に小倉処平の世界観（これからの日本はどうあるべきかまた、そのためにこれからいかに行動すべきか）を仰ぎながら、このまま儒学の道を進むか？また、新たな道（英語を勉強して、世界を知り、外国の良い所を学ぶ）を進むか？思い悩んだあげく、新たな道を進むことを決意する。この決意こそが世界に、そして日本に小村

侯有り（日南市飢肥に小村有り）とその存在感を強く示す事となる。歴史に“もし”はつきものだがポーツマスでの交渉相手がウィッテでなかったら？、いつも考えますが？、随分と違った結果となっていた事でしょう。そして、最後に侯の晩年の言葉、“日本はもう戦争をしてはなりません、戦争をする必要がないだけにはしたつもりです。”が強く心に響いて決して消える事は有りません。

村永 陽子（油津）「ゼミナールに参加して」

初めてのゼミナールは「小村寿太郎侯愛」「郷土愛」に溢れ、参加の皆様の熱心な討論、とても魅力ある時間でした。外務大臣としてのポーツマス講和条約、NHKドラマ「坂の上の雲」で描かれていた「誠実」「正義」の小村寿太郎侯。今回「私の自叙伝」「青春の自画像」を読んで感じたことは、幼少の頃から環境にとても恵まれていた方だったこと。特に祖母の熊子さんの誠心誠意の性格で育まれた事は、生涯、いろんな方との出会いの中で揺るがない「ジャスティス」の精神が受け継がれていたと思う。現代の難しい世界状況の中、もし小村寿太郎侯が存命でいらしたら、どんな敏腕を振るわれていただろうか。

安田 治子（飢肥）「ゼミナールに参加して」

地方を旅行すると、必ずその土地の優れた人物評伝に出会う。どれも出色の本である。長友氏が書かれたこの本も、殆ど知識のなかった小倉処平の全体像がわかって楽

しいゼミナールであった（まだ勉強中だが）。思うに、小村寿太郎に多大な影響を与えた、特に同郷の師としての大きさは、計り知れないものがある。願わくは、同じ時代を共有する時間をもっとあれば流れもかわっていったかも知れない。「戦死するまでの過程でいくつもの生き方を選べる選択があったと思う」と長友氏は書かれているが大変感慨深いものがあった。

吉田 千草（大堂津）

今回のゼミナールは、“一日中あるから長い”と思われる人もいらっしゃいましたが、長友先生の話が沢山聞けると期待する方が大勢いらっしゃいました。小倉処平さんについては今年のゼミナールで学んだ小村寿太郎侯を見出してくださった人としてしか知りませんでした。今回、もし西南戦争がなければ、外務省で仕事をされ小村様と共に日本の為に活躍できたのにと思いました。2、3年前に小村寿太郎侯の大河ドラマが出来れば日本中に小村様の事を知って貰えると思うことがありました。その時は一年間のドラマになるほどエピソードはないのではないかと思います。江戸末期の飢肥藩の様子、安井恵軒先生、小倉処平さん、小村さんに関わった人達の話も交えれば、ドラマ化出来ると分かりました。セミナーの最後は小倉さんの HOT、小村さんの COOL の評価が受講者から出て皆様はよく分かっていたらしゃんと関心いたしました。

世界の歴史教科書シリーズ5 イギリス

日露戦争が勃発した当初、日本よりはるかに強大だったロシア海軍は世界中に散らばっていた。そのうちの一つバルチック艦隊は戦場から 17,000 キロも離れたバルト海にいた。

絶望的な気分のロシア側は結局はそのバルチック艦隊を世界をぐるりと回って極東の戦場に送ることを決めた。

しかしその長い航海は出発点で危うく終わる所だった。ドーバー海峡（英仏海峡）を南下中、英国の漁船群の間を抜けようとした際、それを軍艦と見誤り発砲してしまったのだ。

実際の被害は軽微で漁船 1 艘が沈められ、ロシアの巡洋艦が自国軍の砲弾に当たったのみであったが、日本の人気が高かった英国では怒りの声が高まった。

それからしばらく、はるかに強力な英国艦隊の尾行をうけたが幸いにも一発の砲弾も受ける事はなかった。

その後ロシア艦隊は石炭供給が悩みの種となった。甲板の武器が喫水線の下にくるまで石炭を積みデッキの上にも石炭のヤマがつくられた。

ロシア政府は二つ目の艦隊を送り、先の艦隊と合流する事を決定した為、マダガスカル（アフリカ東部の島）で最大の遅れが生じた。

全艦隊が極東にたどり着いた時すでに旅順は陥落した後だった。

『1905 年 5 月 27 日疲れ切ったロシア艦隊は対馬海峡で日本艦隊と遭遇し、ロシア側の鈍い艦隊は日本の近代的な艦隊の敵にはまづなり得なかった。

司令官東郷提督は砲火を一杯に開きつつ、ロシア艦隊の先頭を横切って進むことが出来た。この T の横棒を書くやり方は蒸気船の軍艦にとっての最善の攻撃形態であり、勝利はほぼ確実であった。

日本軍の砲撃はロシアの軍艦を木々端微塵に打ち砕いた。たった一時間で八艘のロシアの艦船が沈められた。東郷は 1798 年ナイルに於けるネルソンの勝利以来、最も大きな海戦の勝利を勝ちとったのである。』と東郷元帥だけでなく T 字戦法 = 敵前回頭まで解説している。更にその影響について「この 40 年間で日本はヨーロッパの大国を打ち破るところまで近代化を成し遂げた。日本はたちまちのうちに海外領土を持つ帝国主義国となり、西欧に対するアジアの人々の明らかなチャンピオンになったのである。

日本人は偉大な未来を夢見始めた。

ヨーロッパが目覚めさせたのは美女ではなく、巨人だったのである。

大田原 瑞穂 記



防人(さきもり)たちの下へ

小村寿太郎侯東京奉賛会には、偉大な語り部たちが大勢いる。まるで学会の学者の集まりを彷彿とさせてくれる。日本海海戦における東郷の採った戦略について、専門家もたじたじな分析である。熱い、真剣なメンバーたち 40 数人、飢肥藩主伊東公ご子孫のご参加もあってバスは曇り空の新宿を出発した。実物とはいえ、戦後心無い人々によって無残な状態と化した“戦艦三笠”ではあったが、その後懸命な修復がなされたとはいえ私が父に連れられて訪れた昭和 16 年ごろの本物の戦艦三笠とはだいぶ趣を異にしていた。映画のセットのような現在の三笠である。その一週間ほど後に訪れたニューヨークのイントレピッドとの迫力の隔たりを感じない訳にはいかなかった。

自国を否める風潮は、若者を始めどこの国の国会議員なのか。国籍不明な文化人。自虐を売りにするマスコミら。自虐思想が蔓延していることに情けなく思う。日露戦争の皇国の興廃を決めた最大の決戦日本海海戦を戦い抜いた“戦艦三笠”の見学の後訪れた「猿島」。私は初めての訪島であったが、その内部の何と悲哀と決意を秘めた数々の遺構に暫し当時の兵士たちの緊迫した状態に思いをはせたのであった。今は、島の浜辺でバーベキューを楽しむ若者のメッカとして、またコスプレの撮影場所として人気を集めている猿島は、一歩中に入ると江戸時代から残るペリーの砲弾の痕。大東亜戦争時の高射砲の砲台跡など、当時の緊迫した日々を感じさせられる。

このツアーの 3 日後、私は、南北戦争の戦跡を訪ねるツアーでアメリカに飛んだ。六十万人と云う犠牲を出したアメリカ最大の戦跡には、今でも彼の国の人々殊に若い高校生の見学が多く見受けられた。ガムを噛みながら与太り歩く彼らは、一旦引率の説明や、軍服を着た見学者を見かけると威儀を正し敬意を表す。自国のために戦い、守ってくれている人々に対する畏敬の教育が徹底されているのであろう。戦後、三笠は、ダンスホールなどに使われ荒れるに荒れた。猿島また然り。先人の防人たちの労苦に想いを馳せる素敵な一日であった。

宮川 輝子



三笠丸と猿島



明治の建設で第二次大戦まで使用したお台場が立派に残っていて、歩きながら自然を満喫し、心が安らぎました。又、明治の建造物のレンガの要塞のトンネルがロマンティックでアニメのラピュタの天空のお城みたいで素敵でした。会員二年目の私、今回も大変勉強になり実に良かったです。

吉田 千草

横須賀の三笠丸は 40 年前に行ったことがありましたが、船内には入りません、潮風に吹かれて横須賀港を眺めていただけでした。今回バスの中で「坂の上の雲」のビデオを流してくださって、初めて小村侯との関係を知った次第で、お恥ずかしい限りです。三笠丸の中では、立体カメラで日露戦争の戦闘の画像を見るのに夢中になり、ツアーのお誘いを書いてあった小村侯にお会いするのを忘れてしまいました。猿島は見ごたえがありました。こんな所が東京湾に残っていると、驚きでした。



平成 29 年 総会・懇親会のお知らせ

平成 29 年 総会・懇親会を次のとおり開催致します。

開催日時 平成 29 年 11 月 11 日 (土) 13:30 ~
会場 日本出版クラブ会館 3 階 鳳凰の間
新宿区袋町 6 番地 電話 03-3267-6111
会費 4,000 円
基調講演会 「創客創人のまちづくり」
講師 田中 利郎氏 (日南市 副市長)
アトラクション ゲスト 小森 高正氏 (津軽三味線演奏)



小森 高正

小村寿太郎侯東京奉賛会

〒130-0026 東京都墨田区両国 1-14-10-801 電話 03-3846-9030 FAX 03-6659-3084

E-mail: kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp 振込先: ゆうちょ銀行 店番 008 普通預金口座 1191854 名義 小村寿太郎侯東京奉賛会